

2024年 7 月 9 日

株主の皆さまへ

株式会社りそなホールディングス

第 23 期 定時株主総会 質疑応答要旨および事前質問へのご回答

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第 23 期定時株主総会における質疑応答の際に、以下のようなご質問・ご意見を頂戴いたしましたので、その要旨を掲載いたします。

また、総会開催に先立ち、ご質問・ご意見をお寄せいただきまして、ありがとうございました。

いただいたご質問・ご意見のうち、株主の皆さまのご関心の高いと思われる事項等について、以下の通りご回答申し上げます。

株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

< 質疑応答の要旨 >

1	DX(※)による顧客利便性向上、業務効率化について (※)デジタル技術による変革
回答	・ DX 推進による効果については、お客さまへの利便性向上・新しい価値の提供と、社内での業務効率化の両面があると考えております。前者については、例えば、ご好評いただいているりそなグループアプリ等を更に便利にご利用いただけるよう、引き続き努めてまいります。また後者については、今後コストダウンをしっかりと実現できるよう本格的に取り組んでいきたいと考えております。
2	政策保有株式の削減方針・計画について
回答	・ 政策保有株式の売却に際しては、お客さまと向き合って真摯に協議を行った上で進めてまいります。 ・ 売却によって創出される資本については、お客さまへの新しい価値の提供、当社グループの持続的成長を支えるための再投資に充てていきたいと考えております。
3	デジタル分野、データの利活用への取組みについて
回答	・ 当社グループにおいても、デジタル分野やデータの利活用については数年来、本格的に推進しております。当社グループが持つリレーション力やコンサルティング力、信託や不動産といった強みを活かし、デジタル分野だけでなく、リアルとデジタルを融合し、お客さまにしっかりとした価値を提供できるようにしていきたいと考えております。
4	新紙幣発行後の旧紙幣の取り扱いについて
回答	・ 現在流通している紙幣は、新紙幣発行後も利用可能です。それ以前の紙幣については、ATM・両替機では取扱いできませんので、店頭でご対応させていただきます。

5	今後の店舗戦略について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業店チャネルにおいては、各店の役割を見直しつつ、基本的には現状維持を考えております。今後はリアルの営業店舗とデジタルを融合、一体化させていくことでお客さまとの接点を拡充させていくことが重要と考えており、リアル店舗の再整備とともに、デジタル分野についてもしっかりと強化し、地域やお客さまのこまりごとを解決していく場に変えていきたいと考えております。</li> </ul>

6	マイゲートシステム更改時の対応について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月のゴールデンウィークおよびその翌週の2週に渡り、システム更改のためサービス休止を行い、お客さまにはご不便をおかけしました。13年ぶりのマイゲートシステム更改を実施いたしましたが、その際、一部のお客さまにはお振込みができない事象が発生いたしました。ご迷惑をおかけし、お詫び申し上げます。再発防止に向け、しっかりとプロセスを見直していきたいと考えております。</li> </ul>

7	今後の事業承継・地方創生への取組みについて
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業承継は国のこまりごとの一つであり、「リテール No.1」を目指す当社グループにとって、事業や資産の次世代への円滑な承継をサポートすることは大きな使命と認識しております。お客さまのニーズにしっかりと寄り添い、M&amp;A 等、様々なソリューションを通じてお応えしていきたいと考えております。</li> <li>・ 地方創生についても、それぞれの地域に寄り添い、サポートしていくことが当社グループの使命であり、今後、具体的な対応をしっかりと進めていきたいと考えております。</li> </ul>

8	りそな Today の見やすさについて
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郵送コスト削減や環境負荷低減の観点から、年々配布物を簡素化する流れとなっておりますが、情報の内容、質についてももしっかり確保したいと考えており、ホームページでの情報開示を増やす対応をとっております。分かりやすさは相互理解のために重要なポイントであり、引き続き分かりやすい情報発信につとめていきたいと考えております。</li> </ul>

9	女性役員の登用について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性活躍、役員への登用については当社グループとして長く取り組んでいるものの道半ばと認識しておりますが、女性の活躍はグループの企業価値向上に直結するものと考えており、今後もグループを挙げて取り組んでいく所存です。</li> </ul>

<事前質問へのご回答>

1	資本の活用、株主還元の強化について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健全性を維持しつつ、成長投資と株主さまへの還元の両面で拡充してまいります。</li> <li>・ 成長投資のうち、「オーガニック(※1)」領域では、リスクリターンに優れた貸出資産の拡充、「インオーガニック(※2)」領域においては、「お客さま基盤」「経営資源」「機能」の拡充に向けて、それぞれ資本を活用し、しっかりとリターンをあげてまいります。</li> </ul> <p>(※1)企業がその内部資源によって成長すること (※2)他社との提携や他社の買収などを通じて成長すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株主さまへの還元につきましては、健全性の維持と成長投資の機会を考慮しつつ拡充してまいります。</li> <li>・ 具体的には、昨年度スタートした現中期経営計画において、安定配当を継続するとともに、総還元性向「50%程度」を目指す方針としており、この方針に基づき、以下の取組みを実施しております。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 昨年度、1円増配の 22 円の配当とさせていただくとともに、それ以前の 3 年間の実施分と同額となる 250 億円の自己株式を取得しました。</li> <li>➢ 今年度は、さらに 1 円増配の 23 円の配当予想とさせていただくとともに、既に 200 億円の自己株式を取得しております。</li> </ul> </li> </ul>

2	社外取締役の各委員会への出席状況について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2023 年度(2023 年 4 月～2024 年 3 月)において、指名委員会は 12 回、報酬委員会は 9 回、監査委員会は 13 回開催しております。</li> <li>・ また、各委員会の出席率は指名委員会 100%、報酬委員会 100%、監査委員会 96.2%といずれも高い出席率となっており、各委員会では出席した委員の間で活発な議論が行われております。</li> <li>・ なお、委員会への就任・退任の時期が異なることから、取締役間で出席回数に差異が生じております。</li> </ul>

3	金融経済教育の活性化、周知策について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融経済教育は国家戦略の一つと位置付けられており、当社グループとしても従来以上に活動を強化しております。</li> <li>・ 長年取り組んでいる小学生向け「りそなグループ キッズマネーアカデミー」の他、中・高校生向けの学校へ出張授業について、地域の自治体等とも連携を強化し、教育機関等へのアプローチを強化しております。</li> <li>・ また、小・中・高校生が保護者と一緒に学べる「金融経済動画」を作成し、動画視聴により抽選でクラブポイントが当たるキャンペーンも実施するなど、多くの方に学んでいただけるコンテンツの強化も図っております。</li> </ul>

4	金利上昇による業績への影響について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイナス金利解除による金融政策正常化は、金利感応度の高い当社グループにとって基本的には追い風と考えております。</li> <li>・ 一方で、利息支払い増加によるお客さまの業績への影響、当社における有価証券運用への影響は相応にあると認識しております。</li> <li>・ なお、今年度の業績目標においては、マイナス金利解除の影響を+100 億円として加味しております。これは、短期金利上昇により預金の店頭金利上昇等「調達コスト」増加が想定される一方で、市場金利に連動する貸出金の利回り上昇、日銀当座預金への付利等「運用収益」のプラス影響がトータルでは大きいと評価していることによるものです。</li> </ul>

5	不良債権の定義および取組みについて								
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不良債権の各分類の定義は以下の表の通りです。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分 類</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 破産更生債権およびこれらに準ずる債権</td><td>破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立てなどの事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権</td></tr> <tr> <td>② 危険債権</td><td>債務者が経営破綻の状態には至ってはいないが、財務状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権</td></tr> <tr> <td>③ 要管理債権</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 ヶ月以上延滞債権(元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として 3 ヶ月以上延滞している貸出債権)</li> <li>● 貸出条件緩和債権(経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図ることを目的に、債務者に有利な返済条件の変更などを行った貸出債権)</li> </ul> (注)いずれも①②を除く </td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社グループでは、外部機関と連携を図りながら、「経営改善計画の策定」や「中小企業の事業再生等に関するガイドライン」を活用した取引先の再生支援および廃業支援に取り組んでおり、2024 年 4 月の金融庁監督指針改正の趣旨を踏まえ、お客さまとのコミュニケーション等を通じて日常的・継続的な関係強化に取り組み、お客さまの潜在的な“こまりごと”や課題認識を喚起することで、お客さまが窮境に陥る前段階における経営改善支援や事業再生支援等の早期着手につなげていきたいと考えております。</li> <li>・ なお、お客さま毎に状況が異なることから、それぞれの区分における滞留期間や、健全な債権に回復する割合等を一律にお示しすることはできませんが、以下参考として、類似したデータをお示します。</li> </ul> <p>(参考)2024 年 3 月期 IR プレゼンテーション資料における「債務者区分間の遷移状況 (P.88)においては、りそな銀行の 2023 年下期の「要管理債権」(要管理先)の債務者区分の上方遷移が 10.0%、同下方遷移が 5.8%、「危険債権」(破綻懸念先)の同上方遷移 4.2%、同下方遷移が 3.3%となっております。</p>	分 類	内 容	① 破産更生債権およびこれらに準ずる債権	破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立てなどの事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権	② 危険債権	債務者が経営破綻の状態には至ってはいないが、財務状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権	③ 要管理債権	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 ヶ月以上延滞債権(元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として 3 ヶ月以上延滞している貸出債権)</li> <li>● 貸出条件緩和債権(経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図ることを目的に、債務者に有利な返済条件の変更などを行った貸出債権)</li> </ul> (注)いずれも①②を除く
分 類	内 容								
① 破産更生債権およびこれらに準ずる債権	破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立てなどの事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権								
② 危険債権	債務者が経営破綻の状態には至ってはいないが、財務状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権								
③ 要管理債権	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 ヶ月以上延滞債権(元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として 3 ヶ月以上延滞している貸出債権)</li> <li>● 貸出条件緩和債権(経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図ることを目的に、債務者に有利な返済条件の変更などを行った貸出債権)</li> </ul> (注)いずれも①②を除く								

6	株主優待の是非について
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株主優待については、廃止する企業がある一方で、昨今の新NISA制度の導入など個人投資家の裾野拡大が期待される中、優待制度を新設・拡充する企業も増加しつつあります。</li> <li>・ 当社の株主優待制度につきましては、株主の皆さまのご支援に感謝するとともに、りそなグループのサービスをより深くご理解いただきたいとの趣旨から「クラブポイント」の進呈としているものです。是非、本サービスのメリットを享受していただきたいと考えております。</li> </ul>

以上